

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800015		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホームファミリア下呂		
所在地	岐阜県下呂市森2273		
自己評価作成日	平成22年7月3日	評価結果市町村受理日	平成22年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2192800015&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>価値ある一日、その人にあった場面や時間を大切に 選ばれる施設を目指し、個々の努力と職員全員のチームワークで遂行するようにいたしております</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人は、グループホームと小規模多機能型居宅介護事業所を同じフロアにて開設しており、ホーム利用者も小規模サービスのデイサービスに参加したり、食事や行事を一緒に行っている。入浴は週2・3回で、温泉を利用しているが、家庭用サイズの浴槽もあり、利用者の希望に応じ支援している。庭で洗濯物を干したり、花や野菜の収穫を楽しんだり、車で15分程かかる店やホームセンターに買い物に出かけている。市社協に登録している色々なボランティアの訪問があり、共に楽しんでいる。職員は利用者との信頼関係を大切にするケアに取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input checked="" type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざす、優しさ・安らぎ・信頼」をファミリア下呂の理念とし個々職員に周知をはかっている	職員採用時研修で、パンフレット等を配布し、ホームの運営方針・理念を説明している。毎日のミーティングや職員会議で確認・周知を図り、理念が実践されていくよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元行事への参加を通し、地域の方との交流をはかっている	地域との交流を図るために、コンサートをホームで開催しており、区長や民生委員、社会福祉協議会に登録しているボランティア等に案内し、参加や声かけの協力を得ている。また、地域で開催するサマーフェスティバルには、7名ほどの利用者也職員と共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方などを受入、認知症の方への理解を深めてもらっている また、社協等の研修受入		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度推進会議を開催し、ご家族・区長・民生委員・市役所の方々の意見を伺いサービスに生かせるよう努力している	家族、市職員、地域の役員等が参加し、同じフロアにある小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2ヶ月に1回開催している。ホームの利用状況等の報告や行事案内をしている。福祉関係者からの提案もある等運営に関する話し合いが行われ、サービス向上に生かしている。	運営推進会議の案内は、関係者全員に積極的に呼びかけているが、市や地域の役員の欠席が多い。多くの出席者が得られるよう、さらなる取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度的な疑問点などを随時相談し、協力を築くよう努力している 地域包括課、高齢福祉課等と地域の現状受入側の現状等を打ち合わせしている	介護保険制度・その他通達等連絡や、地域の高齢者の現状報告を受けたり、利用者の利用上の相談を行う等、連携を保ちながら協力関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議、ミーティングを利用し常に身体拘束をしない介護を行っている。 入口のドアには施錠をしないようにしている	職員は身体拘束廃止の研修に参加したり、内部学習や職員会議で、拘束しないケアについて話し合っている。建物内は広く出入口も多いが、職員の見守りを意識付けすることで、施錠をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、ミーティングを利用し常に虐待の防止を徹底している		

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	推進会議のメンバーに後見人の方にも参加していただき制度の勉強をさせてもらっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族に時間を頂きわかりやすく、丁寧に説明をさせていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議へ参加をしていただきご意見を伺ったり、来所時に要望などを伺ったりしている。 居室担当を決め訪室時に利用者からの意見を伺ったりしている 定期的に葉書をだして、意見を返していただけるようにしている	家族からは、訪問時や定期的に出される返信葉書、運営推進会議等で、利用者からは、日々の会話や担当者の居室訪問の際に、意見や希望を聴いている。「外出したい」「食事の味付けや量について」の意見が出され、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ミーティングを利用し職員からの意見を聞き検討している	入浴日の職員配置、休憩時間の取り方、要介護者が多くなり利用者と共に食事が取るのが困難になってきている現状等、職員の意見や思いがミーティング時等に出され、管理者や管理職と話し合い、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	サービス残業0を実践出来るよう業務を検討しながら改善点があれば会議にて検討している また、今後人事考課を取り入れる予定		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自のスキルアップを目指し、施設内外の研修に積極的に出られるよう勤めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との交流は、行えていないのが現状である。また、地域柄交流の機会がつかれていないのが現状です。 管理者は、市内の業者が参加する会議には出席している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の状況を事前に伺い、安心で、安全にして過ごしていただけるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	推進会議での家族様の本音や意見・困っていることを参考にし、家族様との初期の段階にて不安等を解消できるような関係を築くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関とも検討しながら面談や、契約時に現在の状況を確認して、その状況に合わせたサービス提供を心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室担当を決め、訪室したり一緒に行事に参加し一方的な立場にならないよう心掛けている。 施設内研修でもスキルアップに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	推進会議の時、来所時に色々な意見を伺い、意見を伺い、意見をサービスに反映して行っている。 来所出来ない方には、毎月広報誌による近況報告を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙は出していただけるようにして、また、知人・友人が気軽に来ていただけるよう心掛けている 定期的に外出支援も実施している	兄弟、子供、孫、知人等の訪問が多い利用者が多く、毎週訪問する家族もあり、お茶を出したり、利用者の様子を伝えている。定期的な行きつけの美容室への同行や自宅周辺へのドライブ等、職員が馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リハビリ体操や、行事には参加していただき、孤立させない努力をしております また、常日頃から利用者同士が自然なかたちで生活できる空間作りにも努めている。 スタッフの介在にも配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、電話等で連絡をとらせていただいております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の要望に答えられるよう居室担当を通じて、ミーティング時・職員会議時に検討している ケアプランのモニタリングにでもチェックしている	日々のケアの際に利用者の様子、表情、しぐさ、話し方等に注意し、利用者の思いの把握に努めている。把握した内容は担当職員に伝え、担当職員が記録に残し、ミーティング時に他の職員にも周知・把握できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・関係機関からの情報をもとに、その方の生活環境を把握して、少しでもその環境に近づけるよう接遇しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室へは、使い慣れた道具や家具をお持ちいただき、ストレスの軽減をしたり、毎日のバイタルチェックや食事摂取量の状況を把握している また、経過をミーティング等でチェックしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議をにて、行うようにしている 担当者を含め、毎日各利用者のモニタリングを実施している	職員は、担当する利用者の様子や対応、介護に加え、医師からの指示や看護についても記録に残している。利用者の思い、家族の希望、職員の気づき等の情報が集まり、チームとして支援の方向を確認し、介護計画が作成・モニタリングされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護日誌、特記録にて気づきがあれば記入しミーティングにて見直しや、検討をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状で何が出来るか、どの様に対応するかを、ミーティングにて検討している 社会資源の活用も検討しながら地域密着サービス等の展開を常に心掛けミーティングでも意志づけるようにしている		

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公の機関、ボランティアの方の協力を得ながら、楽しく生活できるよう工夫している また、地域資源の活用を念頭におきフェスティバル等の行事に出向く事を実施しているが地域がら活用しづらい現状であり今後の課題にしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診や、看護師と相談し、かかりつけ医にいつでも受診できるよう家族への連絡も行っている どのような医療受診できるよう支援している	協力医による往診が月に2回ある。ホーム利用以前からのかかりつけ医への受診を継続している利用者は、原則、家族の支援による受診としているが、家族ができない場合や緊急時は、看護師の資格を持つ職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや、不安な事柄を常勤看護師にいつでも相談し、対応できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護師が情報交換につとめ関係機関、家族との協働に努めている 医療機関と協定を結び、診察・処置を受けられる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意向確認書を取り、ご家族の意向調査を行い、対応させていただいている	入居時に、終末期等の意向確認書により、終末期を迎えたい場所、対応等の希望を聴いている。開設以来9名の利用者を看取った経験がある。	緊急時の対応で、地域のかかりつけ医とも連携が図れるように、日常からの連絡・受診等のかかわりも期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導のもと、救命講習を随時実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練や、地元自治会に加入している また、推進委員会時にも協力をお願いをしている	消防署の協力により、春と秋に年2回の防災訓練を実施し、1回は夜間を想定した訓練を行い、誘導に要する時間も計測している。運営推進会議において地域役員等に地域からの応援を依頼している。3日分程度の食料品の備蓄もある。	さらには、ホームから地域へ働きかけ、災害時等における地域の高齢者や独居の高齢者に対する支援提供や協力等体制づくりの検討も期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する接遇の勉強会を行っている。	職員会議の中で接遇研修を行っている。「見守りを大切にするケア」への取り組みで、職員間での言葉使い、利用者に対する声の掛け方、態度等が利用者の人格を大切にしたものになっているか、職員間で確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが利用者の方と目線を合わせる努力をしている 利用者と一緒にお茶を飲んだり、会話の中から希望を伺ったりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当施設のスローガンも掲げスタッフが常に念頭におくようにしている 職員の都合でのサービスにならないよに事案が発生した地点で、ミーティングを行ない軌道修正も実施している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを用意するときなどは、出来る限り利用者を選んでいただけるようにしている 介助時に乱れを整えたりしている(身だしなみを整える支援には配慮している)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	随時嗜好調査を行っている。それをもとに献立を検討している また、食事作りや、おやつ作りを出来るだけ利用者の希望に沿えるよう配慮している	週1回の朝食時には、米飯やパンを好みで選択できる。調理担当の職員がいるが、おやつ作りや調理の準備で利用者と共にできる事は一緒に行っている。利用者が食べられない副食の代替メニューの提案や献立の希望の聴き取りも行い、担当者に伝わる仕組みができています。	郷土料理や漬物、味噌作りと料理の得意な職員がおり、利用者と共に四季それぞれの料理作りや味を楽しんでいる。さらには、調理の過程をケアの一環として、介護計画に盛り込み、食事を楽しむことが出来る取り組みを継続されたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じて、きざみにしたり、トロミをつけたり工夫して召し上がっていただく 摂取量が確認できるようチェック表もりようしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを徹底している。 利用者に応じて、介助させていただいている		

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、確認し排泄パターンを把握し誘導や介助させていただく モニタリング等もチェックし利用者個々の情報を把握し自立支援にも配慮している	把握した利用者の排泄リズムに注意し、声かけや誘導するタイミングに配慮している。本人の能力や状況に合わせ、トイレ、居室において利用者が気持ちよく排泄行為が完了するように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師との相談にて便秘の予防をしている また、看護師から介護スタッフへの周知も職員会議等で実施している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉を利用しているので、ゆっくり楽しんでもいただけるよう努力している。希望する方は毎日入浴出来るよう考慮している ユニットバス希望のかたにはユニットバスを利用してもらっている	週2～3回を入浴日としているが、希望によっては、毎日の入浴も支援している。入浴の時間帯、習慣や好みを聴き取り、ゆったりと入浴を楽しむ支援をしている。広い温泉の浴槽を好まない利用者には各ユニットにある家庭用サイズの浴槽を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温等に気をつけて、利用者が快適に安眠や休息出来るよう配慮している ベットや寝具等にも希望が出来るよう配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防止するため、職員がチェックし服薬介助時に口腔投薬を心掛け、服薬が終わるまで、見守りを行っている 薬についての勉強会も実施してスタッフ全員の意識高揚に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のあることや楽しみを伺い、その事柄をケアプランにも反映させ、日々楽しく過ごせるよう努力している 担当スタッフとの関わりを重視しミーティング、モニタリング等で支援目標を設定するようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	プランターの花の水やりや、菜園での収穫、洗濯干しなどの生活リハビリを通して外気浴をしたり、お買い物に出かけたり定期的にドライブにも出かけたり、近所の散歩に出かけられるようしている	気候や利用者の希望に合わせ、近くの公園へ散歩に行くのを日課にしている。食材の買い物、庭での野菜や花の世話、洗濯物干し等を行い、外気に触れる機会を多く作っている。崖があるため、庭へ出ることには配慮が要るが、職員間で見守りを怠らないようにしている。	

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族がご本人へ現金をお預けにみえたり、施設での管理はないが、買い物に出かけたときなどは、職員が介助しレジでのお支払いをされています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用できます。手紙は集配ボックスを設置し自由に手紙を出すことができます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場は車椅子の方でもご利用いただけるようにこたつを工夫したり、職員の動きや言葉が不快にならないよう心掛けている 空間作りにも季節の工夫をしたりしている。	ユニットごとにある共用空間や小規模多機能型居宅介護事業所と共用の食堂やリビングも共に広く、大きなソファも用意され、利用者や家族と共に過ごす姿がある。各ユニットごとに大きなテーブルやテレビが用意されている。	居室部分が繋がる廊下の壁面には、ほとんど装飾や掲示物がなく、生活感や季節感を取り入れる等の取り組みが期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフの目配りに注意をし、個々の空間作りリアルタイムで対応できるように常に打合せをしている また、机や椅子の配置に気をつけて、ゆったり過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族・ご本人の希望を最優先とし、在宅での生活に近い空間作りを促している。 また、自宅で使用していたテレビ、家具をお持ちいただき、居室のレイアウトもご家族、ご本人と相談しながら配置している	広い和式の居室が5部屋あり、ベッドも設置している。鏡台、タンス他馴染みの数や小物・写真等の持ち込みも多く、移動時に歩行の障害にならないよう配慮し、設置している。利用者は、家族と相談して持ち込んだ見慣れた物品に囲まれた生活ができ、安心できる場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スロープを設置し出来る限り段差を解消したり、居室には、名札を入れ自分の部屋が認識できるようにしている 共有部分でのマーキングもミーティング等で打合せしながら常に配慮し、安全対策にも心掛けている。		